

## ブラジル経済審査報告書 2006：エグゼクティブサマリー

ブラジルは、マクロ経済の安定と経済改革で近年著しい発展を遂げている。生産性は、1990年代半ばのマクロ経済安定化および一連の経済改革策の実施以降、向上している。しかし、OECD 域内との所得格差の広がり埋めるためには、ブラジルは GDP 成長パフォーマンス（1995 年以降、年率平均で約 2.5 パーセント）を高める必要がある。急速な成長という観点から安定化の恩恵を最大限に得るためには、マクロ経済的調整の強化、企業セクターにおけるイノベーションの推進、そしてフォーマル経済の労働者の活用強化が必要である。

### マクロ経済的調整の強化

財政政策は軌道に乗り、公的債務管理は模範的に実施されている。金融政策は持続的なインフレ緩和をもたらしており、期待感を後押ししている。ブラジルのマクロ経済上の包括的な課題は、財政調整の質を高めながら、過剰な公的債務を削減し続けていくことであり、これまでのところは歳出抑制によってというよりも、歳入増加によって下支えされている。課題の実行のためには、現行の支出、特に年金の支出を抑える政策が必要であり、GDP に占める債務比率が持続可能な方法で縮小されることになれば、その後の税負担軽減へ道を開くものになる。

### 企業セクターにおけるイノベーションの推進

イノベーションの能力は急速に向上している。イノベーション政策は現在、科学技術の振興、研究開発（R&D）支援、貿易競争力の間のシナジーの可能性に焦点を当てはめている。しかし、R&D 集約度は OECD 水準よりもかなり低く、政府や国立大学による R&D が大勢を占めている。ニッチ分野の多くは学術的に優れているが、成果指標の数値は改善の余地がまだかなりあることを示している。主要な政策課題は、企業セクターのイノベーションを推進することである。そのためには、知識を企業の生産性向上へと転換できるよう、各種政策において人的資本の蓄積を強化し、産学ベンチャーを奨励する必要がある。

### フォーマル経済の労働者の活用強化

ブラジルの労働力参加率は、OECD 加盟国の働き盛りの男性のそれに相当する。女性はやや低く、若者は就学率の上昇などに伴い低下傾向にある（これは歓迎すべきことである）。にもかかわらず、特に学歴の低い層にインフォーマル労働の蔓延が見られる。労働市場がますます技能重視になっていることがその理由である。主要な政策課題は、フォーマル労働者の活用率を高めることである。これは、仕事の内外での人的資本の蓄積の促進と、イ

ンフォーマル経済の機会費用を下げることになる、反インセンティブ的な政策の緩和によって達成が可能である。